

| ディプロマ・ポリシー   |     | カリキュラム・ポリシー   | アドミッション・ポリシー   |
|--|-----|---|--|
| <p>本学科では、本学の定める修業年限以上在学し、共通教育科目・基礎教育科目および専門教育科目を所定の履修方法に従って124単位以上を修得し、次のような能力・資質を備えた者に対し、教授会の意見を聴いて、学長が卒業を認定します。卒業が認定された者には、学士（日本語日本文学）の学位を授与します。</p> |     | <p>本学科ではディプロマ・ポリシーを達成するために、次のような方針に基づき、カリキュラムを編成します。</p> <p>本学科が開講する科目は、専門的学修の基盤となる「基礎教育科目」と専門的知識・技能を段階的に高めていく「専門教育科目」の2つの柱として編成します。</p> <p>「基礎教育科目」は、「古文入門」「漢文入門」など高等学校までの学修内容を踏まえて大学での専門的学修へ円滑に移行していく科目、「情報リテラシー」「日本語表現演習」など実践的な情報機器（ICT）活用技能および日本語表現技術を習得する科目によって構成します。</p> <p>「専門教育科目」は、1年次の「日本語学概論」「日本古典文学概論」「日本近代文学概論」から4年次の「卒業論文（卒業制作）」まで、本学科の中核となる専門学修を段階的に配当します。領域としては、古代から現代に至る文学研究、日本語学研究、日本語教育、中国文学、書道、言語文献情報学、国語科教育および日本文化学にわたり、学生はそれぞれを関連づけながら学びます。とくに3、4年次の「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」では、学生が自らの意志で選択した専門領域に即して主体的・能動的に学び、それぞれの知識を定着・深化させ、体系的に把握します。</p> <p>技能・表現に関する科目では、アクティブラーニングなど双方向性の高い授業を進んで取り入れ、学生が主体的に学び発信する姿勢を養います。その成果が「卒業論文（卒業制作）」となってあらわれます。</p> <p>「基礎教育科目」および「専門教育科目」各科目の系統的な学修によって、日本語・日本文学・日本文化に関する広範な知識を修得し、実践的な日本語表現技術を身につけ、課題発見能力と問題解決能力を獲得していきます。</p> | <p>本学科は「立学の精神」とそれに基づく「教育目標」に賛同し、かつ卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な次に掲げる知識や技能、意欲を備えた女性を求めます。</p> <p>日本の言語・文学・文化に関心を持ち、それらの学修を通して得た専門的知識と論理的思考力とを活かして、①高いコミュニケーション能力を有する職業人として社会に貢献しようという意欲を持った人、また②中学校の国語科教諭、高等学校の国語科または書道科教諭、学校図書館司書教諭、日本語教員、図書館司書、博物館学芸員の職業に就き、それぞれの分野で活躍し、社会に高く貢献しようという意志を持った人。</p> <p>具体的には、高等学校で国語総合をはじめとして現代文、古文を十分に学び、外国語にも一定の知識と関心を持ち、文系・理系とも幅広く学習して基礎的な学力を確保していることが求められます。</p> |
| 1. 知識・理解   | 1-1 | 日本語および日本文学に関する基礎的また専門的知識を修得している。  |  |
|  | 1-2 | 自国および他国の文化に対する理解を深め、日本の言語・文学との関連性を体系的に把握している。   |  |
| 2. 技能・表現   | 2-1 | 日本語のしくみ・特性を深く理解し、自らの思考を他者に対して的確に発信する能力を備えている。   |  |
|  | 2-2 | 情報機器（ICT）活用技能を含む諸技能と豊かな表現力を身につけている。   |  |
| 3. 思考・判断   | 3-1 | 日本語・日本文学に関して身につけた専門的知識を捉えかえし、批判的に考察する能力を備えている。  |  |
|  | 3-2 | 論理的思考を身につけ、自ら課題を発見して解決に導く能力を備えている。  |  |
| 4. 態度・志向性  | 4-1 | 日常生活の中で大学での学修の価値を認識し、常に学問的態度を保っている。   |  |
|  | 4-2 | 広範で体系的知識と豊かな感性、倫理観に基づき、自らの役割を自覚しながら使命を全うしようとする強い意欲と意志を持っている。  |  |